

東京学芸大学附属世田谷中学校授業研究会 公開授業 第1学年「特別の教科 道徳」学習指導案		授業者	渡邊 裕				
		授業学級	1年C組(男子17名,女子18名)				
題材名	「便利」とは?～身近なことから考える～(A-05:自分自身-真理の探究、創造)						
概要	社会の変化のなかにあつて、子供達は日常生活でふれる“「便利」になること”を、「自動化」など“できるかぎり人の手が加わらない状態”のようにとらえてしまっていないだろうか。「便利」と判断する基準は個々に異なり、状況等も影響するものである。普段無自覚に行っているそのような行為にあらためて目を向けることで、状況判断を伴う「価値づけ」について主体的に向き合い、考える機会としたい。本時では絵本や書籍などを用いながら、「一つの考え方」に触れる場や身近な事柄との結びつきを考えるきっかけを設定していく。						
学習過程	問題発見	計画, 情報収集・精査・選択	解決の実行	振り返り			
思考の手立て	<分解>	<分類>	<比較>	<結合>	<転換>	<置換>	<推論>

1. 授業のねらい

「よりよく生きるための道徳性を養う」

普段無意識に判断している「便利」とはなにかを考えるなかで、自身の経験を振り返ることや「便利」さそのものだけではない視点(不便の有様)にも目を向けながら、他者と意見の交流を図り、共有される視点に気づくことや、そこにある差異を踏まえること等から、「社会生活」を送るなかで「～とはなにか」を深く考え、他者に対する寛容さも持ち合わせられるような道徳的判断力を育む。

2. 授業の位置づけ

A-05:真理の探究、創造については、「真実を大切に、真理を探求して新しいものを生み出そうと努めること」とされる。一学期の授業で「真実/真理とは」ということを考える機会を得ているなかで、その一例となる「便利」について深く考えることを通じ、「真理の探究」に向き合う姿勢をの汎化/深長を図る。これはまた、目標にある「物事を視野から多面的・多角的に考える」ということに結びつくものとも位置づけられる。さらに、「便利」という抽象度の高いものに向き合うなかで、「諸事象の背景にある道徳的諸価値の多面性に着目」し、「どのように生きるのか」主体的に考えることにも関連づくものである。

3. 本時の主張

(1) 生活学習の中に位置づく「道徳」

「豊かな集団生活を通して心身の調和のとれた発達を目的とし、道徳性・社会性を育む」生活学習のなか位置づけられる「道徳」の授業での課題解決過程は、実生活の結びつきを土台とした「学習過程」のなかからもとらえることができる。この視点に立ち、学習過程・思考の手立ての観点から、本時の学習を捉えていく。

(2) 思考の入り口として/「問い」への着目

「道徳」の学習過程(課題解決過程)において、「思考」することは非常に重要である。そこで、「思考の深まり」を促すために、その“入り口”をどのようにつくるのかという点から考えていきたい。これはまた、「問い」への着目とみることもできる。本時においては、汎化/深化という観点から、抽象度の高いものを具体的に置き換えていくことが必要になる。そこで、身近な事柄の想起や視点の転換を促すために、絵本や書籍などを利用していく。

(3) 要素の抽出/思考を“促す”手立て

多面的・多角的要素から、自己と他者に目を向け、共通する「要素」への着目を促す。また自身の考えだけに依りすぎないように、思考を促す“問いを重ねる”ことに着目する。

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点	学習過程・思考の手立て
<p>〈1. 導入〉【自分の考えを明らかに】</p> <p>「便利」ってなんだろうという観点から考える。</p> <p>① これは「便利」というもの</p> <p>② 「便利」になってほしいものを考える。(5分)</p>	<p>・それぞれの経験を顧みながら、「便利」と言う意識を自覚化していくことをねらいとする。</p> <p>・たんに事物を思い浮かべるだけでなく、「便利」と結びつけた「なぜ」という問い返しを促す。</p>	<p>振り返り</p> <p>〈結合〉</p>
<p>〈2. 展開Ⅰ〉</p> <p>(1) 「便利」から「不便」をとらえる</p> <p>① 「便利」について自分のことばで説明する。</p> <p>② 『ものぐさトミー』を参考に“「便利」のあり方”(方向性)について考える</p> <p>③ 「便利」をもとに「不便」とはを説明する(20分)</p>	<p>・「便利」と「便利になる」ということの印象の差異など、「ことばへの着目」をきっかけに、「便利」ということの“奥行き”を意識させる。</p> <p>・“自動化”を「便利」とは異なる観点で示した話題を土台に、「便利」の有り様を考える</p> <p>・“不”便”ということの抽象性、「共有しているつもり」の土台に目を向けることを促す。</p>	<p>問題発見</p> <p>〈転換〉</p> <p>〈置換〉</p>
<p>〈2. 展開Ⅱ〉</p> <p>【グループで考えてみる】～「便利」を見つめて</p> <p>Iを参考にしながら、「便利」とはなにかグループで話し合ってみましょう。</p> <p>① それぞれの「考え」を紹介する</p> <p>②「Q ワード」をつかって、皆の出した「考え」を検討してみる</p> <p>③ グループで「便利」に関連する事柄を整理する(10分)</p>	<p>・はじめに示したものと絵本をもとに考えたことを、言語化してみる。</p> <p>・それぞれの「考え」を知ることで、共通する部分、異なる部分の存在を意識する。</p> <p>・思考の変化を促すことが期待できる II 語を用いて、それぞれの考えを多角的に捉えるきっかけとする。</p>	<p>〈転換〉</p> <p>〈置換〉</p>
<p>〈3. 展開Ⅲ〉</p> <p>・“不便益”や“弱いロボット”など、違和を含む結びつきの事例をもとに、「便利」をあらためてとらえてみる。</p> <p>・「便利」を考えるときに「大切」なのはなにか、自分の考えを明らかにする。(10分)</p>	<p>・「便利」そのものを受け止めるのではなく、それを形作る要素・視点に着目することで、汎化のきっかけとし、「社会生活」への応用を促す。</p> <p>・「便利」ということの「真理」を考えていくために、“そのもの”だけではない観点を意識化することを促す。</p>	<p>計画、情報収集・精査・選択</p> <p>〈比較〉</p>
<p>〈4. 終末〉</p> <p>・本日、自分が考えたこと・気づいたこと・疑問を振り返る。(5分)</p>	<p>・本時考えていった事柄を振り返り、「便利」そのものだけでなく、それをとらえるうえで「大切」なものといった、個々の感性に根付くものを含むことに目を向けたうえでの振り返りを促す。そこから、「道徳的諸価値の多面性」について考えを深められるようにしたい。</p>	<p>振り返り</p> <p>〈転換〉</p> <p>〈置換〉</p>

参考文献 川上浩司『不便益のススメ 新しいデザインを求めて』岩波書店、2019.2.21

・荒木寿友 編著『未来のための探究的道徳 「問い」にこだわり知を深める授業づくり』((中学校道徳サポートBOOKS) 明治図書 2019.8.19

・NHK Eテレ「Q～こどものための哲学」制作班(編集), 古沢良太(原著), tuperu tuperu(イラスト)『べんりってほんとうにいいこと?』(NHK Eテレ「Q～こどものための哲学」)ほるぷ出版、2018.11.20

・川上 浩司『ごめんなさい、もしあなたがちょっとでも行き詰まりを感じているなら、不便をとり入れてみるはどうか? 不便益という発想』インプレス、2017.3.16

・岡田 美智男『〈弱いロボット〉の思考 わたし・身体・コミュニケーション』講談社現代新書、2017.6.14